

令和4年度 基本施策評価シート

作成日 令和4年7月4日

基本施策	A4 国際性を豊かにします		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	市民が	国際交流や国際理解に積極的に取り組み、外国人住民とともに快適な環境の中で暮らしている。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ		44ページ～45ページ	
基本施策主管課名	国際課	所属長名	松尾 龍太
関係課名	学校教育課		

基本施策の振返り

後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み(H28～R3年度)	
個別施策	A4-1	国際交流の機会の充実を図ります	
ア 市民の異文化理解や多文化共生の認識		⇒	(ア)国際交流員(英語・韓国語・中国語を母語とする外国人職員)による小中学生や市民を対象とした外国文化体験出前講座や国際理解講座等の実施 (イ)国際交流イベントの実施 (ウ)オランダ・ライデン市との姉妹都市提携(H29年度) (エ)ポルトガル・ポルト市及びフランス・ヴォスロール村姉妹都市提携40周年記念訪問への市民の参加(H30年度) (オ)市民友好都市であるドイツ・ヴュルツブルク市から市民訪問団受入(R元年度) (カ)中国・福州市との友好都市提携40周年を記念したオンライン調印式の実施(R2年度) (キ)子どもゆめ体験事業における中学生の姉妹都市等への訪問、ホームステイ等による交流(H28～R元年度) (ク)ALT(外国語指導助手)を活用した小学校の「ハローイングリッシュ活動や外国語活動、中学校英語科の授業における協同した授業による小中連携した9年間の国際理解教育の推進 (ケ)ALTを活用した交流イベントや中学生英語スピーチコンテストの実施
個別施策	A4-2	外国人住民が暮らしやすい環境づくりを進めます	
ア 多言語による情報提供と市民との交流及びコミュニケーションの充実		⇒	(ア)4ヶ国語(英語・中国語・韓国語・日本語)で掲載した「外国人住民のための生活ガイド」の配布 (イ)フェイスブックなどSNSによる市政情報やイベント情報の発信 (ウ)国際理解教育のイベントの実施、国際ボランティアによる日本語講座等の実施
個別施策	A4-3	留学先としての質の向上を図り、留学生の満足度を高めます	
ア 外国の学生への支援の充実		⇒	(ア)産学官が一体となった長崎留学生支援センター(経済団体等・大学・関係自治体で組織)による留学生の募集・生活・就職・交流などの支援 (イ)外国人留学生による海外への情報発信、国際交流イベントへの留学生活用



成果及び効果 (H28～R3年度)		
個別施策	A4-1	国際交流の機会の充実を図ります
<p>①国際交流の機会と内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生を対象とした外国文化体験出前講座(年平均約40回)を引き続き実施し、で子どもたちが幼少期から外国の文化に触れる機会を提供したことで、外国に対する関心・理解を深め、その後の自主的・主体的活動につながっている。 ・国際理解講座(年平均約30回)などで多くの市民が国際交流を体験することができたことにより、外国に対する関心・理解を深め、気軽にかつ身近に国際交流を体験するきっかけになっている。 ・令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面によるイベントや海外の都市への訪問団派遣は中止したが、非接触型あるいはリアルとオンラインを組み合わせたハイブリッド型によるイベントの開催やオンラインによる海外の都市との交流など、新たな手法を取り入れながら事業の継続を図ったことにより、市民の国際理解の醸成や海外の都市との友好関係の構築につながった。 		
<p>②国際理解教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTや英語科教員からの指導により、英語力が向上するとともに、スピーチコンテストを平成25年度より9回開催し、そこで出場した同世代の英語スピーチを聞くことが刺激につながり、スピーチのレベルが年々高まっている。 ・自分の住んでいる地域、郷土、長崎の文化や伝統について理解を深めるなど郷土長崎への関心を高め、社会の担い手となるであろう中学生として必要な国際理解の感性や推進力を身に付けつつある。 		
個別施策	A4-2	外国人住民が暮らしやすい環境づくりを進めます
<p>①生活支援と市民との交流機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語講座ボランティアによる初級日本語講座の回数を増やしたことで、多くの外国人住民が生活に必要な日本語を学ぶ機会を提供することができた。 ・国際交流団体を含め、外国人住民を含む市民同士が交流する機会を促進するとともに、外国人住民に対する浴衣着付け教室や日本料理体験教室といった日本文化体験等イベント(各年1回)の開催、初級日本語講座(週1回開催、1コース25回、年3コース)による日常生活に必要な日本語を習得する機会の提供などに取り組んだことにより、多文化共生の取組みが進んだ。 		
個別施策	A4-3	留学先としての質の向上を図り、留学生の満足度を高めます
<p>①産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎留学に関する情報発信やビジネス日本語講座の開催などの長崎留学生支援センターを中心とした各種支援等により、新型コロナウイルス感染症の影響を除くと外国人留学生数は増加しており、また、就職支援等により、県内・国内への進学・就職につながっていることから、長崎留学生支援センターを中心とした、留学生の支援が、長崎留学の魅力を高め、留学生の増と留學生活の充実に寄与している。 		
問題点とその要因 (H28～R3年度)		
個別施策	A4-1	国際交流の機会の充実を図ります
<p>①国際交流の機会と内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼少期を含め、多くの市民に多文化に触れてもらうため、講座・イベント内容について工夫の余地があるが、イベントへの新規参加団体の発掘や、学校における国際交流・理解のための多くの時間の確保が容易でない。 		
<p>②国際理解教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業における取組みは、全ての子供たちへ提供し充実できているが、イベントやコンテストなどは希望者が中心となっているため、すべての学校や子供たちを対象とした取組みが不足している。 		
個別施策	A4-2	外国人住民が暮らしやすい環境づくりを進めます
<p>②生活支援と市民との交流機会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人住民概況は雇用情勢等により刻々と変化し、把握が難しいことから、外国人住民のニーズの把握が不十分である。 		

個別施策	A4-3	留学先としての質の向上を図り、留学生の満足度を高めます
<p>①産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み</p> <p>・留学生は増加してきているものの、国籍などの状況は変化してきていることから、長崎留学の価値の向上や充実した留学生活のため、就職支援や情報発信など留学生の状況に応じた必要な取組みが多様化しており、個別の対応が難しい。</p>		

今後の取組方針	※【】内は五次総合計画における個別施策
<p>A4-1→【A3-1 国際交流・国際理解の機会の充実を図ります】</p> <p>①国際交流の機会と内容の充実</p> <p>・国際交流イベントについて、外国人住民や留学生に参加してもらい、より多くの国の文化を体験できるよう内容の充実を図り、各種メディアや関連イベントを活用するなど効果的な周知に取り組む。</p> <p>・市民の国際理解を深める機会を増やすため、講座等の情報発信に取り組む。</p> <p>・姉妹都市等との交流の内容を、子どもたちにわかりやすく伝える取り組みを進める。</p> <p>・子どもたちが外国を訪問し、文化の違いを肌で感じる機会を創出することで、外国への関心や国際感覚の醸成を図ることにより、国際的に活躍できる人材の育成に取り組む。</p> <p>②国際理解教育の推進</p> <p>・ALTの配置により、小中学生が日常生活の中で外国人と触れ合うことや中学校の授業の充実に努めるとともに、国際交流イベントやアジア諸国からの修学旅行生、外国人観光客との交流など、外国人と児童生徒が直接触れ合う国際交流体験の充実に努める。</p> <p>A4-2→【A3-2 外国人住民が暮らしやすい環境づくりを進めます】</p> <p>②生活支援と市民との交流機会の充実</p> <p>外国人住民の生活に必要なニーズなどを把握する取組みを進め、市民が外国人住民と交流できる機会の提供・支援を行う。</p> <p>A4-3→【A3-3 留学先としての質の向上を図り、魅力を高めます】</p> <p>①産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み</p> <p>・長崎留学生支援センターを中心として、産学官の加盟団体、関係団体、企業と情報共有し、一体的に募集、就職、情報発信等の留学生の状況に応じた各種支援の取組みを進める。</p>	

成果指標		※「◎」は目標値を上回ることが望ましい指標、「○」は目標値を下回ることが望ましい指標							
指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3	
国際理解講座への参加者数	2,030人 (26年度)	↑ 目標値	2,087	2,115	2,144	2,172	2,200	2,587	
		実績値	3,185	2,932	2,380	2,531	2,715	1,597	
		達成率	152.6%	138.6%	111.0%	116.5%	123.4%	61.7%	
在留外国人数	3,444人 (26年度)	↑ 目標値	3,529	3,572	3,615	3,658	3,700	3,700	
		実績値	5,659	4,109	3,809	3,700	3,163	2,854	
		達成率	160.4%	115.0%	105.4%	101.1%	85.5%	77.1%	

基本施策の評価
<p>Db 目標を達成していないが、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる</p> <p>判断理由</p> <p>・基本施策の成果指標のすべてが100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「D」とする。</p> <p>・個別施策の成果指標6のうち、100%以上の目標達成率が半数以下の1つで、目標達成率が95%未満の低いものもあるため「c」であるが、新型コロナウイルス感染症の影響により人との直接的な接触が制約される中で、予定とおりの国際交流ができなかったものの、オンライン形式などの代替手段で取り組んだことにより、概ね順調に進んでいると考えられるため「b」とする。</p>

二次評価(施策評価会議による評価)

- 次の理由により、1次評価で「Db」であった評価を、「Dc」と評価した。
(理由)1次評価においては、コロナ禍で予定通り国際交流ができなかったものの、オンライン形式などの代替手段で取り組んだことによりおおむね順調に進んでいるとして、評価「Db」としていたが、オンライン形式の代替手段による取り組みが、「b」の評価となる「成果指標の過半数が100%以上又はすべてが95%以上」相当ではないと判断し、「Dc」と評価したもの。
- 基本施策シートに「国際交流員」という言葉が出ていないが、英中韓の国際交流員は国際交流に寄与する長崎市の特徴的な取り組みであるため、記載すべき。
- 五次総合計画にも記載されている「国際的に活躍できる人材育成」は重要な視点であるため、今後の取り組みに記載すべき。

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	A4-1	国際交流の機会の充実を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象		意 図	
	市民が		国際交流を体験し、国際的な理解を高めている。	
個別施策主管課名	国際課		所属長名	松尾 龍太

令和3年度 of 取組概要

- ①国際交流の機会と内容の充実
- ・国際交流員による小中学生を対象とした外国文化体験出前講座を実施するとともに、市民に国際交流・理解の機会の場を設けるため、国際理解講座などを引き続き実施した。
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、国際交流イベントについては、例年の文化体験・紹介ブースに加え、オンラインイベント、動画、展示による「ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」等を開催した。
- ②姉妹都市等の情報提供等と市民交流の支援
- ・中国・福州市との友好都市提携40周年に係る相互訪問について、令和2年度から令和3年度に延期していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。しかしながら、40周年記念事業や10年間を振り返った交流を掲載した記念誌を作成した。また、福州市の学校と交流に関する協定を締結した長崎商業高校と三重中学校は、中国と長崎との関係について学ぶとともに、オンラインによる交流を行った。
 - ・中国・福州市が世界各地の友好都市などを招いて開催したオンライン文化祭に長崎市長が参加した。
- ③国際的に活躍できる人材の育成
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、企画ボランティアによる小学生向けの国際理解教育イベント「あじさいENGLISH DAY」をオンライン形式で実施した。
 - ・子どもゆめ体験事業は、中学生16人を姉妹都市オランダ・ライデン市と市民友好都市ドイツ・ビュルツブルグ市に派遣する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により中止した。
- ④国際理解教育の推進【G1-1に再掲】
- ・ALT(外国語指導助手)36人及びALT専門指導員1人をすべての市立小・中学校及び高等学校に派遣し、ネイティブスピーカーとして授業を補助した。
 - ・中学2年生を対象とした市独自の英語の学力調査を実施した。
 - ・小学校の英語科や外国語活動、中学校英語科の授業において、ALTやEII(小学校英語インストラクター)が協同して授業を行うなど、小中連携した9年間の国際理解教育を推進した。また、放課後等の時間に中学校へEIIを派遣し、希望する生徒への個別指導を行った。
 - ・ALTと協働して交流イベント(あじさいEnglish Day～5G Go Go Go Glover Garden～は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)や中学生英語スピーチコンテストを実施した。
 - ・小学校4校、中学校8校において、国際課の国際交流員による外国に対する関心や理解を深めるための外国文化体験出前講座を実施した。

評価(成果)

①国際交流の機会と内容の充実

- ・小中学生を対象とした外国文化体験出前講座で子どもたちが幼少期から外国の文化に触れる機会を提供したことで、外国に対する関心・理解を深め、その後の自主的・主体的活動につながっている。
- ・国際理解講座などで多くの市民が国際交流を体験することができたことにより、外国に対する関心・理解を深め、気軽にかつ身近に国際交流を体験するきっかけになっている。
- ・新型コロナウイルスの影響により、「ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」は、例年と異なりステージイベントや人との接触が多いイベントを中止したことから、参加者は一昨年の1,049人から370人に大幅に落ち込んだものの、参加団体の日頃の活動を市民に紹介する場にする事ができたことにより、参加団体の活動の動機づけの一つになっている。

②姉妹都市等の情報提供等と市民交流の支援

- ・中国・福州市との都市提携40周年を記念した相互訪問は新型コロナウイルス感染症の影響により延期したが、40周年記念事業や10年間を振り返った交流を掲載した記念誌を作成したことにより、両市の結びつきを強めることができた。また、学校交流に関する協定を新たに結んだ長崎商業高校と三重中学校のそれぞれが、現地の学校と交流することができたことにより、市民レベルでの交流によるつながりが深まっている。
- ・中国・福州市が世界各地の友好都市及び準友好都市を招いて開催したオンライン文化祭に長崎市長が参加することにより、両市の結びつきを強めることができた。

③国際的に活躍できる人材の育成

- ・新型コロナウイルスの影響により、「あじさいENGLISH DAY」はオンラインでの開催となったが、外国人住民と市民が交流し、子どもたちが異文化にふれる機会を提供することができた。
- ・子どもゆめ体験事業は、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により中止としたが、事業の3年後のアンケート調査を継続して実施したことにより、参加者の現状を把握することができた。
- ・子どもゆめ体験への参加により、海外の人々との交流・文化を肌で感じるとともに、長崎のことを見つめなおす機会にもなっており、国際感覚を持つ人材の育成につながっている。

④国際理解教育の推進【G1-1に再掲】

- ・ALTの活用により、英語を用いてコミュニケーションをとる機会が増え、英語力の向上につながっており、郷土長崎への関心を高め、社会の担い手となる中学生として必要な英語力や国際理解の感性が育成されている。
- ・スピーチコンテストに出場した同世代の英語スピーチを聞くことが刺激になる。審査員や参加したALTによるとスピーチのレベルが年々高まっているとの声が聞かれており、国際化社会に向け、自分の気持ちを英語で伝えるコミュニケーション能力の育成につながっている。
- ・中学校卒業までに英検3級以上を取得及び相当の英語力を有している生徒が増えた。(H27:37.9%→R3:50.5%)

評価(問題点とその要因)

①国際交流の機会と内容の充実

- ・小中学生をはじめ、より多くの市民が多文化に興味を持ち、触れてもらうため、例年同じような内容ではなく、講座の拡充・イベント内容について工夫の必要があるが、イベントにおける新規参加団体の発掘や学校における国際交流・理解のための多くの時間の確保が容易でない。

②姉妹都市等の情報提供と市民交流の支援

- ・交流事業に携わった者は、成果や効果を実感しやすいが、事業規模から参加者が限定的となり、成果や効果が指標として見えづらく、市民との情報共有が難しい。

③国際的に活躍できる人材の育成

- ・子どもゆめ体験事業の参加者が勉強や学校行事などで忙しいこともあり、参加後も継続的に国際交流や国際理解に関心をもってもらうことが難しい。

④国際理解教育の推進【G1-1に再掲】

- ・交流イベントやコンテストなどへの参加は、英語を学ぶことに興味のある子や家庭の支えがある子が中心となっており、それ以外の子が参加するきっかけづくりができていない。

今後の取組方針

- ①国際交流の機会と内容の充実
- ・より多くの市民に国際交流・理解の機会の場に参加してもらうため、国際理解講座や国際理解出前講座について、地域への呼び掛けなど幅広い周知に取り組む。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国際理解講座等が中止となった場合、講座の概要をホームページやフェイスブックに掲載するなど、オンラインの利用を図りながら代替えとなる国際交流・理解の機会の確保に取り組む。
 - ・国際交流イベントについて、外国人住民や留学生に参加してもらい、より多くの国の文化を体験できるよう内容の充実を図り、各種メディアや関連イベントを活用するなど効果的な周知に取り組む。
- ②姉妹都市等の情報提供等と市民交流の支援
- ・市民間の交流が深まるよう、今後も周年事業等による機会も活用しながら、情報発信や支援の充実に取り組み、関係強化と交流促進につなげる。
 - ・姉妹都市等との交流の内容を、子どもたちにわかりやすく伝える取組みを進める。
- ③国際的に活躍できる人材の育成
- ・小中学生向け講座の様子等を国際情報のホームページやフェイスブックで発信し、周知を図り講座の拡充につなげる。
- ④国際理解教育の推進【G1-1に再掲】
- ・小中学生が、給食や休み時間なども含め日常生活の中で外国人と触れ合うことや、中学校の全学級においてALTとの協同授業が週1回以上、可能である状態を保つため、ALT及びALT指導専門員を引き続き任用する。
 - ・中学2年生を対象とした市独自の英語の学力調査を実施し、中学生の早い段階から生徒個人の課題に応じた指導を行う。
 - ・県学力調査分析結果をもとに、多くの英語教員が実際の使用場面に応じた英語を生徒が話したり書いたりできるような工夫や手立ての充実を図る。
 - ・世界で活躍する人の講話を聞いたり、英語を使って観光地を案内しながら長崎の街を散策する「あじさいグローバルリーダー研修会」を実施する。また、令和3年度では新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、推進していくのは難しいと思われるが、コロナ禍収束後は、アジア諸国からの修学旅行生や国際クルーズ客船で訪れた観光客との交流など、外国人と児童生徒が直接触れ合う国際交流体験の充実をさらに進める。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3	
国際交流イベントへの参加者数	510人 (26年度)	↑	目標値	617	679	867 (747)	884 (821)	900	1,072
			実績値	741	850	971	1,049	421	370
			達成率	120.1%	125.2%	112.0%	118.7%	46.8%	34.5%
国際交流を実施した小・中学校数	107校 (26年度)	↑	目標値	109	108	107	108	106	105
			実績値	109	108	107	108	106	105
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	<p>(事業名) 国際交流員招致費</p> <p>【国際課】</p> <p>(事業目的) 国際交流員を任用し、通訳・翻訳や国際交流に関する業務を行い、本市の国際化を推進する。</p> <p>(事業概要) 英語、韓国語、中国語の国際交流員を任用し、通訳・翻訳、国際交流にかかる業務を通して国際化を推進するとともに、外国人住民の支援や市民の国際意識の向上を図る。</p>	<p>成果指標</p> <p>国際理解講座への参加者数</p> <p>目標値</p> <p>2,587 人</p> <p>実績値</p> <p>1,597 人</p> <p>達成率</p> <p>61.7 %</p> <p>決算(見込)額</p> <p>9,465,595 円</p>	
		<p>成果指標及び目標値の説明</p>	<p>国際交流員等が行う国際理解講座(小中学生向けの外国文化体験出前講座含む。)の受講により、国際理解・国際交流のきっかけづくりができた市民が増えると考えられるため、同講座への参加者数を成果指標とした。 目標値については、令和3年度は、第5次総合計画の目標値と同じ数値2,587人とした。</p>
		<p>取組実績、成果・課題等</p>	<p>(取組実績) ・通訳、通訳 ・外国人住民のサポート ・国際理解講座等の啓発活動 ・国際交流、観光等のイベント対応</p> <p>(成果・課題等) 新型コロナウイルス感染症の影響により、中国語の国際交流員を任用できていないことから、実績値が目標値を下回っている。 市民の国際理解・国際交流のきっかけづくりとするため、今後も内容の充実など積極的に展開する。</p>
2	<p>(事業名) 国際理解教育推進費</p> <p>【学校教育課】</p> <p>【G1-1に再掲】</p> <p>(事業目的) 国際化が進むこれからの時代にふさわしく、自ら進んで交わろうとする国際感覚豊かな子どもの育成を図るために、外国語指導助手(ALT)と外部指導者を全市立小中学校に派遣し、児童生徒が生の英語に直接接し、英語に対する興味を高めるとともに、国際感覚を養い、国際理解教育の推進を図る。</p> <p>(事業概要) ALT(36人)及びALT指導専門員(1人)や外部指導者が、小学校のハローイングリッシュ活動や外国語活動、中学校英語科の授業で担任と協働しての授業を行うとともに、国際理解教育のゲストティーチャーを務めて、小中連携した9年間の国際理解教育を推進する。 国際感覚の醸成のために、出島等の市の施設を利用し、外国人と児童生徒が触れ合う交流イベントを開催する。 中学生英語スピーチコンテストを実施し、ふるさと長崎について発信する機会を通して、英語で自分の考えを伝える態度や表現力を育成する。</p>	<p>成果指標</p> <p>長崎県基礎学力調査(中学校英語)</p> <p>目標値</p> <p>57.8 点</p> <p>実績値</p> <p>58.1 点</p> <p>達成率</p> <p>100.5 %</p> <p>決算(見込)額</p> <p>177,648,178 円</p>	
		<p>成果指標及び目標値の説明</p>	<p>客観的に英語の学力をはかることができることから、県学力調査(中学校英語)の平均点を成果指標とした。 令和3年度の目標値を、長崎市の生徒が県平均よりプラス1.2ポイントの学力をつけることとしている。</p>
		<p>取組実績、成果・課題等</p>	<p>(取組実績) 小・中学校教諭やALTを対象とした研修会を実施し、指導力の向上を図ることができた。また、英語研究部会と協力し、学力向上研修会の際に、研究推進員が作成したリーフレットや指導案を提供し、授業改善を進める機会とした。さらに、文科省調査官を招へいた研修会を実施したり、視学官を招へいた授業研究会への参加を促したりすることで、より実践的な指導の在り方を学ぶ機会とした。</p> <p>(成果・課題等) 成果指標において県平均の正答率を1.5ポイント上回る結果となり、達成率は100%を超えることができた。令和4年度も引き続き学力調査の結果や解説資料をもとに分析し、授業改善に生かす。</p>

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
3	<p>(事業名) 福州市友好都市提携40周年記念事業費</p> <p>【国際課】</p> <p>(事業目的) 長崎市と中国・福州市との友好都市提携40周年を記念し、友好親善訪問団を相互派遣するとともに、40周年を契機とした学校交流や記念事業等を実施することにより、両市の結びつきを強め、様々な分野での今後の交流促進につなげる。</p> <p>(事業概要) 1. 福州市への公式訪問団派遣 2. 福州市訪問団受入れ 3. 学校交流 4. 記念誌の発行</p>	成果指標	学校交流やスポーツ交流など市民交流参加者数
		目標値	270 人
		実績値	108 人
		達成率	40.0 %
		決算(見込)額	549,450 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民間交流の促進を目指すため、市民交流参加者数を成果指標とした。</p> <p>目標値については、福州市訪問団来崎時、学校交流を行う生徒との交流やスポーツ交流を合計し、270人とした。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎商業高校と三重中学校がそれぞれ福州市の高校・中学校との交流を実施 ・記念誌の発行 <p>(成果・課題等)</p> <p>新型コロナウイルス感染症のため、人的往来はできなかったが、オンライン形式などで交流の機会を創出するとともに、記念誌を発行することができた。</p>		

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	A4-2	外国人住民が暮らしやすい環境づくりを進めます		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図		
	外国人住民が	日常的に困ることなく快適に暮らしている。		
個別施策主管課名	国際課	所属長名	松尾 龍太	

令和3年度 of 取組概要

- ①多言語による情報提供の充実
- ・行政手続きや暮らしの情報、災害に備えるための情報などを4ヶ国語(英語・中国語・韓国語・日本語)で掲載した冊子「外国人住民のための生活ガイド」や国際課ホームページ上の「生活に役立つ情報」欄に、日本語でわかりやすく伝える「やさしい日本語」を活用した。
 - ・外国人住民が情報収集のために多く利用しているホームページやフェイスブックで市政情報やイベント情報などについて多言語での情報提供を行った。
- ②生活支援と市民との交流機会の充実
- ・通訳ボランティアによる乳幼児健診などの業務支援を行った。
 - ・日本語ボランティアによる外国人住民向けの生活に必要な初級日本語講座を行った。
 - ・企画ボランティアによる外国人住民向けの浴衣着付教室などのイベントは、新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。

評価(成果)

- ①多言語による情報提供の充実
- ・冊子「外国人住民のための生活ガイド」や国際課ホームページに「やさしい日本語」を活用し、英語・中国語・韓国語が母国語でない外国人住民により分かりやすく情報提供ができたことにより、外国人住民が必要な情報に容易にアクセスし、各種イベント等の情報を含め適切な情報を分かりやすく得られることで、安心して生活できる環境づくりにつながった。
- ②生活支援と市民との交流機会の充実
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、初級日本語講座の実施回数は予定していた25回のうち20回の実施となったが、外国人住民が生活に必要な日本語を学ぶ機会を提供することができた。
 - ・国際交流団体による取組みを含め、外国人住民を含む市民同士が交流する機会を促進し、外国人住民に対する日本文化体験等イベント、生活に必要な日本語を習得する機会を提供するなど、多文化共生の取組みが進んだ。

評価(問題点とその要因)

- ①多言語による情報提供の充実
- ・外国人住民概況は把握が難しく、雇用状況等により刻々と変化するため、外国人住民のニーズ・必要とされる言語の把握が難しい。
- ②生活支援と市民との交流機会の充実
- ・少子高齢化に伴う労働力不足を背景に国等の外国人材受入れ促進に向けた取り組みによって、新型コロナウイルス感染症の収束後、外国人住民の増加が見込まれるため、多様な文化・習慣を持った外国人住民への理解や交流が必要となり、多くのニーズへの対応が難しくなることが見込まれる。
 - ・外国人住民が増加するに伴い日本語講座についても受講者数の増加が見込まれるため、外国人住民の生活に必要な初級日本語を教える日本語講座ボランティアが不足する恐れがある。

今後の取組方針

- ①多言語による情報提供の充実
- ・外国人住民概況の確認およびイベント講座等を通じて外国人住民の生活に必要なニーズの把握に取り組む。
 - ・やさしい日本語の理解・普及を図り、外国人住民にとって分かりやすい情報発信につなげる。
- ②生活支援と市民との交流機会の充実
- ・異なる文化や習慣をお互いが理解しあうことが出来るよう、市民と外国人住民が交流できる機会の提供・支援を行う。
 - ・日本語講座について、引き続きボランティア登録者数の増加を図るとともに、受講者アンケートの実施と検証を行い、ボランティアと協力しながら受講者(外国人住民)により満足してもらえる講座となるよう取組みを進める。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
国際ボランティアの登録者数	107人 (26年度)	↑ 目標値	125	134	143	152	160	178
		実績値	143	189	191	183	169	156
		達成率	114.4%	141.0%	133.6%	120.4%	105.6%	87.6%
初級日本語講座の受講者数	449人 (26年度)	↑ 目標値	496	520	543	567	590	668
		実績値	414	556	742	648	349	372
		達成率	83.5%	106.9%	136.6%	114.3%	59.2%	55.7%

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	(事業名) 多文化共生推進費 【国際課】 (事業目的) 外国人住民の生活利便性を向上させるため、 行政情報の提供や日本語講座などを実施する。 (事業概要) ・行政等の情報提供 ・外国人住民のための日本語講座、法務相 談、通訳、交流機会の提供の実施	成果指標	在留外国人数(暦年)
		目標値	3,700 人
		実績値	2,854 人
		達成率	77.1 %
		決算(見込)額	1,196,212 円
		成果指標及 び目標値の 説明	外国人住民が増えることは、市民と外国人との交流の機会が増え、相互理解も進むことにより、外国人住民が暮らしやすい環境づくりにつながるため、市の在留外国人数を成果指標とした。 直近5年間の最高値が異常値(5,659人)であるため、令和3年は、令和2年までの目標値を据え置き、3,700人とした。
		取組実績 、成果・課題 等	(取組実績) ・外国人住民の生活ガイドや国際課ホームページへの「やさしい日本語」の活用や多言語による情報発信 ・通訳ボランティアによる業務支援 ・日本語ボランティアによる初級日本語講座の実施 (成果・課題等) 外国人住民向けの情報発信や生活利便性向上のための取組みを行った。 「やさしい日本語」を、外国人住民への情報発信を行う様々な機会において活用する。 日本語講座ボランティア登録者を安定して確保するとともに、日本語講座の受講者の満足度を把握し、改善を進める。

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	A4-3	留学先としての質の向上を図り、留学生の満足度を高めます	
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図	
	外国人留学生が	長崎留学の価値を見出すとともに、充実した留学生活を送っている。	
個別施策主管課名	国際課	所属長名	松尾 龍太

令和3年度 of 取組概要

- ①産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み
- ・長崎留学生支援センター(大学・関係自治体・経済団体等で組織)において、長崎への留学を呼び込むため、国内外の日本語学校への長崎留学ガイドの送付や、長崎留学ガイドブックのデータ版作成などの募集支援、ホームページを通してアルバイトの紹介を行う生活支援、オンラインによるビジネス日本語セミナーや留学生活用セミナーなどの就職支援、同窓会ネットワークを活用した交流支援など各種支援を行った。
 - ・長崎市の歴史・文化への理解を深めてもらうため、引き続き外国人留学生に対して市有施設への入館料等を免除した。
- ②外国人留学生との協働
- ・長崎留学生支援センターが中心となり、中国、ベトナムにある海外長崎留学生同窓会に長崎の大学の状況や生活に必要な情報などを提供し、現地の人々に長崎留学の魅力を発信した。

評価(成果)

- ①産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み
- ・新型コロナウイルス感染症により従来の方法で留学生に対する就職支援ができないなかで、オンラインによるビジネス日本語セミナーや留学生活用セミナーを行うことで、留学生に対する支援を行うことができた。
 - ・長崎留学生支援センターの就職支援等により、35人が県内に就職した。
 - ・市有施設の入館料等を免除することで、より多くの外国人留学生が長崎市の歴史・文化に触れることができた。
 - ・長崎留学生支援センターを中心として、留学生の募集支援、就職支援、交流支援など各種支援を産学官が一体となって行うことで、長崎留学の魅力を高め、留学生活の充実につながっている。
- ②外国人留学生との協働
- ・長崎留学生支援センターが中心となり、海外長崎留学生同窓会を通して海外への情報発信を行い、長崎留学の価値を高めることにつながった。

評価(問題点とその要因)

- ①産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み
- ・留学生は増加してきているものの、国籍などの状況は変化してきていることから、長崎留学の価値の向上や充実した留学生活のため、就職支援や情報発信など留学生の状況に応じた、必要な取組みがより一層多様化している。

今後の取組方針

- ①産学官が一体となった各種支援策への一元的な取組み
 ・長崎留学生支援センターを中心として、産学官の加盟団体、関係団体、企業と情報共有し、一体的に募集、就職、情報発信等の留学生の状況に応じた各種支援の取組みを進める。
- ②外国人留学生との協働
 ・留学生が自らの力を活かすことができるとともに、市民の異文化理解や多文化共生にも寄与するよう、様々な機会をとらえ留学生との協働に取り組む。
 ・外国人留学生に対する市有施設入館料等の免除や海外長崎留学生同窓会を通じた長崎の大学の状況等の情報発信等により、引き続き長崎留学の魅力を紹介していく。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
外国人留学生数 (※在留資格が「留学」の市内在住者)	1,162人 (26年度)	↑ 目標値	1,241	1,281	1,321	1,361	1,400	1,328
		↑ 実績値	987	1,040	1,179	1,272	880	696
		↑ 達成率	79.5%	81.2%	89.3%	93.5%	62.9%	52.4%
外国人留学生の公共 施設入場料免除利用者数	2,812人 (26年度)	↑ 目標値	3,103	3,203	3,303	3,403	3,500	3,453
		↑ 実績値	2,595	2,946	3,630	3,293	680	468
		↑ 達成率	83.6%	92.0%	109.9%	96.8%	19.4%	13.6%

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	<p>(事業名) 留学生支援・連携費</p> <p>【国際課】</p> <p>(事業目的) 産学官が一体となった「長崎留学生支援センター」を中心に、留学生の各種支援や留学生に長崎の歴史・文化を体験してもらうなど、留学生の満足度を高め、留学生数を増加させる。</p> <p>(事業概要) ・募集、生活、就職などの各種支援 ・留学生に長崎について知ってもらうための取り組み ・海外への長崎留学の情報発信</p>	成果指標	外国人留学生数
		目標値	1,328 人
		実績値	696 人
		達成率	52.4 %
		決算(見込)額	1,362,000 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>留学地としての満足度が高まるような環境を整えることで、留学生数の増加につながると考えられるため、住民登録における在留資格が留学の者の数を成果指標とした。目標値については、令和3年度は、第5次総合計画の目標値と同じ数値1,328人とした。</p>
		取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績) ・長崎留学生支援センターを中心とした産学官が一体となった支援 ・市有施設の入館料等免除</p> <p>(成果・課題等) ・長崎留学生支援センターを中心とした大学等関係機関の連携 ・日本語学校への情報提供等を含めた連携</p>